

No. 1262

モスクワ五輪に向けて

— 日・ソ対抗サッカー —

日・ソ対抗サッカー第一戦、アムール・ブラゴベシンスク対、日本代表の試合は3月19日東京、国立競技場で行われました。日本はストライカー、釜本のあとに斎藤をコンバートするなどモスクワ五輪に向けて、若い布陣で望みました。アムールはソ連リーグ第3部に属し、攻撃的なチーム、日本は若さにまかして走りまくりますがアムールの意外にしっかりチェックに再三のチャンスをものにできません。アムールもボックスのムクルチチョフを中心とした早い攻撃で日本ゴールをおびやかしますが得点に至らず前半を終了。日本有利と思われていましたがアムールは互角に戦います日本は後半36分、CKのこぼれ球をCFの斎藤がシュート。さらに藤口のヘディングとたたみかけるが惜しくもクロスバーに当たってノーゴール。アムールも終了2分前、ボックスのエトキンがゴール正面からフリーシュート。しかしGK田口の好守備の前にゴールならず結局両者無得点のまま試合終了。モスクワ五輪に焦点をあわせてスタートした新生日本チーム。しかし釜本、奥寺の抜けた穴は大きく前途多難のようです。

伊豆の島々

— 東京都移管百年 —

太平洋上に浮ぶ伊豆の島々。伊豆諸島は明治11年、静岡県から東京都へ移されて今年で100年を迎えた。東京・日比谷公会堂では、東京都移管100年を記念して盛大に記念式典が行なわれた。あいさつに立つ美濃部知事。「独特の風景を持つ伊豆諸島は日々、コンクリートジャングルに住む多くの都民にとって緑のオアシスとしてくつろぎの場を与えています。」東京竹芝榎橋から120キロ、伊豆諸島で一番大きい島、大島。今年も都会から大勢の観光客が訪れた。

東京都と言っても、そこは“離島区” 広大な山すそでは牛がのんびりと遊ぶ。名物、大島つばきが旅情をかきたてる。自然と人間が一体となる大島自然公園。雄大な景観を誇る三原山。今では年間80億をこえる観光収入をあげる。しかし、伊豆諸島の中には恵まれない島も多い。島民たちは東京移管100年を一つの契機として更に「住みよい島づくり」をめざし努力することを誓い会った。